

肢体不自由教育特別支援学校教員の専門性

総合教育センター授業づくり支援課特別支援班

【A(あてはまる、講師ができる)、B(大体あてはまる、日々の学習活動に生かしている)、C(不十分である)】

内 容	自己評価
1 特別支援教育に関すること	
① 運動機能障害と運動発達及び教育の役割について理解している	
② 重度・重複障害について理解している	
③ 補装具・自助具について知識があり、取り扱い方が分かる	
④ 肢体不自由に基づく自立活動の指導について理解している	
⑤ 運動・動作に関する知識と技術がある	
⑥ 認知・言語発達に関する知識がある	
⑦ コミュニケーション・AAC(拡大代替コミュニケーション)支援の知識・技術がある	
⑧ てんかんや代表的な疾病に関する知識を持ち、対処法や健康チェックの観点が分かる	
⑨ 医療的ケアに関する知識・技術を持っている	
⑩ 嚥下機能が分かり、摂食指導ができる	
⑪ 学習指導要領に基づいた教育課程を理解している	
⑫ 発達障害について理解し、特性に応じた支援方法が分かる	
⑬ カウンセリングや教育相談に関する知識・技術を持っている	
⑭ 職業教育、進路指導に関する知識・技術を持っている	
2 子ども理解、指導計画の作成	
① 心理検査に関する知識と技術を持ち、分析ができる	
② 実態把握(アセスメント)の方法が分かり、個々の障害の状態、認知・言語・運動等の発達や特性を的確に把握できる	
③ アセスメント結果を生かし、指導目標や手立ての立案ができる	
④ 個別の指導計画の意義が分かり、作成できる	
⑤ 個別の教育支援計画の意義が分かり、作成できる	
3 授業力、実践的指導力	
① 個別の指導計画に基づいた授業計画、授業展開、学習評価ができる	
② 障害に配慮した教科指導ができる	
③ 個々の実態を踏まえた目標が設定できる	
④ 個々の目標を達成するために適切な手だてを講じることができる	
⑤ 生活に生きる力を育て、児童生徒が主体となる学習活動の展開ができる	
⑥ 個々の実態に応じた適切な教材・教具や補助具等を活用できる	
⑦ 情報教育、コンピュータ等に関する知識・技術を持ち、活用できる	
⑧ TTによる役割分担を理解し、適切に連携・協力ができる	
4 保護者、地域・関係機関との連携	
① センターの機能を理解している	
② 保護者の心理が分かり、連携・協力ができる	
③ 医療・福祉・就労機関等について知識を持ち、必要に応じて連携がとれる	